

## 今月の御教え

鳥や獣がどのようにして生きていくかを考えてみても、神のお恵みがわかる。冬になつたといつて重ね着をするでもなく、夏になつても一枚も脱ぐことはない。神はそれでちやんとさしつかえのないように育てておられる。牛などが子を産んでも、別に親が温めてやることもないが、それでも大きくなる。木にしても、はじめは目にも見えないような双葉であるが、だれが育てるといふこともないのに、大木になつて世のためになる。人はみなその恩を受けている。この様なことを考えてみても、神のありがたいことがわかる。みな、よく物の道理を知つて信心しなければならぬ。

……「天地は語る」 第二十四条……

## 解説

この御教えを頂いた青年・山本定次郎は、かつて父親から教祖様が見抜き見通しであることを聞いて不思議に思っていました。ある時、教祖様に「どうしてそのようなことが分かるのですか？」と訊ねると「真の心になつて願えば神様が知らせて下さる」とのお言葉でした。そうして、頭書の御教えであります「鳥や獣は人間の様に、季節に忘れて衣服を調えたりすることが出来なくても、ちゃんと生きていくことが出来、又、山の木々が放つておいても自ずと育つて大木になつて、役に立つこと等を考えたら、神様の有難いことが分かるであろう」との御理解を頂いたのであります。

私達は往々にしてそれらの現象を、自然にそうなつているとしか思えないのであります。それでは残念ながら天地の道理、真理は何時まで経つても分かり得ないのです。

新しい年を迎えた今、いよいよ教祖金光大神様のご理解が心底か感得させて頂けるように、一層信心の稽古に勤しみたいものであります。